学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立戸塚第一小学校

【HP公開用様式例・中間・最終評価】

中間評価

○ 成果と▽ 課題

● ▼ 期末への方策等

【第1学年】

【国語】

- ○文字(平仮名)を正しく記述し、語句の意味を 捉えることはできるが、文章等で表現に生かす ことはまだ難しい。
- ○読む活動は、宿題の音読や図書の時間を通して 充実させることができた。

【算数】

- ○数の構成分解、加法・減法(繰り下がり、繰り上がりなし)の基礎基本の定着は図ることができた。
- ▽自分なりの言葉で発言することはまだ一部の子 しかできていない。

【第2学年】

【国語】

- ○拗音、促音の記述については、日記や日々の学習での見直しをとおして、少しずつ定着してきている。
- ▽1年の漢字を含め、既習の漢字を文章内で活用 することについては、更に指導が必要である。

【算数】

- ○加減法の繰り上がりや繰り下がりについては、 授業の導入で復習計算を取り入れたり、練習プ リントを取り入れたりした結果、定着が見られ てきている。
- ▽身近なものの長さや、水のかさなどの量感がな く、的確な単位を選んで使うことを苦手とする 児童がいる。

【第3学年】

【国語】

○漢字ドリルノートと漢字のミニテストを活用し、漢字の定着を図った。

【国語】

●平仮名の習得はできているが、カタカナと漢字は 習得率が低いので、宿題のプリントや国語での言 葉の学習、ノートへの記述などの回数を増やして いく。また、11月から日記の宿題を開始する。

【算数】

- ●加法・減法は繰り上がり、繰り下がりの学習がこれから始まるので、確実に定着するように、具体物と途中式を用いていく。
- ▼自分なりの言葉で発言できるように、発表形式だけでなく、対話、グループ活動を取り入れていき、また、話すだけでなく聞き手の受け答える力も高めていくために話型などを活用する。

【国語】

▼家庭学習の日記を既習の漢字を入れて取り組んだものを添削し、それを児童が清書することで、 使える漢字を増やしていくようにする。

【算数】

▼算数の学習の時間にとどまらず、意図的に長さを 測ったり大体の水のかさを予想したりする経験 を増やすことで、量感をつけらけるようにする。

【国語】

【算数】

- ○習熟度別指導により、個に応じた支援が拡充で きた。
- ▽課題解決の方法を考えて図、式、言葉で表現する力はまだ十分とは言えない。友達の考えや発表を聞いて自らの学びにつなげる経験が少ない。

【第4学年】

【国語】

○新出漢字の学習を計画的に進め、ショ ートテストを定期的に実施してきたことによ り、新出漢字を正しく覚えて文章の中で使おう とする場面が増えてきた。

【算数】

▽習熟度別指導で、個に応じた指導を充 実させることができた単元と、そうでない単元 があり、特に図形の単元では定着がまだ十分と はいえない児童が多く見られた。

【第5学年】

【国語】

- ○根拠をもって自分の意見を相手に説明するため に、どのような方法をとればいいのかを個人や 他の人と考える時間をもつことができた。
- ▽書く活動では、自分の意見を順序立てて論理 的に表現することに課題がある。

【算数】

○自力解決後の他者との比較・検討の時間を確保 したことで、式を立てる過程を様々な方法で考 えることができる児童が増えた。

【第6学年】

【国語】

- ○自分の考えをもち、その上で友達と交流することで、考えを広げることができた。
- ▽事実について順序立てて書くことはできるが、 今までの学びや経験と結び付けて考えを表現す ることが十分でない。

【算数】

▼問題に対して図、式、言葉で表現する学習活動を 丁寧に取り組んでいく。

【国語】

- ●新出漢字を正しく読んだり書いたりするだけで なく、学習した言葉のきまりについても正しく使 いこなせるよう繰り返し指導する。
- ●説明的文章を読む際に、要点を捉えて要約する力 を高めていけるように、学習を充実させる。

【算数】

▼定着が十分でなかった単元については、デジタル ドリルや計算ドリルを活用しながら習熟を図る。

【国語】

▼書く活動を国語の時間だけでなく、様々な生活の 場面で多く設けるようにする。

【国語】

- ●交流の後に書く活動を設定し、考え方の幅が広がったことから自分の考えが深まっていくことを、 児童自身が実感できるよう指導していく。
- ▼考えをもつことができていても、書いて表現する ことが苦手な児童に対して、書き方の例を示した り書く時間を十分に確保したりして、取り組んで

【算数】

▽解法のプロセスを順序立てて書くこと が課題である。

【音楽科】

低学年

度の土台ができてきている。友達と協働して学 習する楽しさや達成感も感じられるようになっ てきた。

中学年

- ○表現する楽しさや喜び、他者の表現のよさを感 受する態度が身に付いてきている。
- ▽思いや意図を表現するための基礎的な技能(特 に器楽)には個人差がある。

高学年

- ○新しい知識や経験に対して主体的に学ぶ態度が 身に付いてきている。
- ▽一人ひとりがもっている思いや意図を生き生き 表現するための創意工夫や技能には課題があ る。

いけるようにする。

▼順序立て方の指導や類似問題での確かめなどを 継続的に行う。

- ○互いの声や音をよく聴き、合わせようとする態 | ●ペア学習やグループ学習では、互いの考えを尊重 して表現をよりよくしていこうとする姿が多く みられる場面を設定する。
 - ●継続して学習の振り返りを行い、自ら課題を見付 け、次の学習につなげられるようにする。
 - ●表現と鑑賞を関連させた題材構成や、他教科と関 連させた指導を引き続き行う。